



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0025
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第329号

ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

信徒への教え「羨望や嫉妬反キリスト教的ではなく和睦への道」 マヘル神父

今月の私のからしだねの記事として、カトリック新聞9月7日号のパパ様のお話を一緒に考えてみたいと思います。パパ様によって指摘された『羨望や嫉妬、対立は人間の本能から生じるが、そうしたことはキリスト教的ではなく、そこから信者間に生まれる分裂は悪魔の仕業だ。』と記載されています。そうではなく、神が私達に望んでいるのは、一致してお互いに望んでいるのは、一致してお互いに許し合い、お互いに愛し合ってより一層神に似た者になるための能力を向上させる事なのです。教皇は教会についての講話を再開し、「信条」ではカトリック教会は「唯一の聖なる」教会となっているが、教会のメンバーは罪びとであり、「毎日、自らの弱さとみじめさを体験しています。」と指摘しました。「ですから、私達が告白しているこの信仰は私達を回心へと突き動かす、毎日を一致と聖性のうちに生きる勇気を求めているのです。」私達が一致していなければ、・・・私達が聖なるものでなければ、・・・それは私達がイエスに忠実ではないからです。」と教皇は強調した。分裂は離教またはキリスト者間の大規模な不和だけに表れるのではなく、地方のレベルでも頻りに起こり、カトリック教会の小教区や学校、共同体や機関の中でも「偏狭な罪」と表れている。と教皇は指摘する。「実際には、時として、分かち合いと交わりの場と言われて

いる私達の小教区でも、悲しいことに羨望や嫉妬、憤りが目立っています」「これは人間的なことですがキリスト教的ではありません！」と教皇は訴えた。「小教区ではどれ程、噂話がされていることでしょうか！」と教皇は嘆く。「そんなことをしてはいけません！私は皆さんに舌を切ってしまうと言っているのではありません。けれどもどうか主に祈って、そんなことをしない恵みを願ってください。いいですか？噂話をしないことは、実際、とても素晴らしいキリスト教的徳で、ある人を一夜にして聖人にしてしまう程だと教皇は指摘しています。私達は皆、好き嫌いがあり、今も恐らく誰かに対して怒りを覚えています。せめて主に伝えましょう。「主よ、私は、この人にもあの人にも腹を立てています。その彼、彼女のために祈ります。」怒りを感じている人のために祈ることは、愛への美しい第1歩であり、福音宣教の行為です。今日それを行ってみましょう。兄弟愛の理想を奪われないようにしましょう。皆さん、教皇様が正直に訴えて下さったことを水巻教会の皆さんとよくお互いに祈りましょう。

| | |
|---------------|------|
| 正義と平和全国集会 | 2・3面 |
| 委員会報告 | 4・5面 |
| パウロの歩いた道 | 6面 |
| 社会問題に向き合う | 7面 |
| お知らせ・教会学校のページ | 8面 |

正義と平和協議会 全国大会(福岡開催) 報告 2回目

9月13日～15日、大名教会で開催された正義と平和 全国大会の報告、2回目です。

シーゲル神父講演(神言修道会)「イエスが望む教会と社会との関わり」

教会が社会について語った古くて新しい歴史について、初代キリスト教共同体、中世ヨーロッパから現代に至るまでの、それぞれの民衆の社会への対応、戦争とその回避の知恵の歴史について、そして将来の問題。広範囲の問題について語られました。

話の冒頭は、「バチカンが発行した文書で社会問題に関するものは、1891年に初めて出た『教会の社会教説』であったということ。」でした。以下では、講話の中でも特に興味深かった、**初代キリスト教時代を初めとする、民衆の社会的意識の推移、および、戦争と回避の知恵の推移**について、記します。

初代キリスト教共同体の時代：信徒は自らの資産や収入を持ち寄って共同生活をし、そこに貧困なものはなかった。社会的弱者はあったとしても、当時、よく言われた「やもめ、みなし子、寄留の他国民」には、ある方法で保護が考えられていた。例えば、「穀物の収穫の時、振り返ってはいけない」(故意に、取りこぼしをして、その後、弱者に取らせること)というルールがあったほどである。但し、国家に対してその歩む道はこうあるべきだ、という言及がある訳はなかった。

中世キリスト教社会：一転して、教会が支配者層にくっつく。しかし、ここで悪いことばかりでなく、現代にも語られる国際法、人権論等の概念が生まれた。但し、庶民を見る目は、上からの目線。その中でも、前述の、社会に対する回勅が1891年に出される。ここでキリスト教が社会を導く観点として、声明の尊厳、主体性(=自由意志)、連帯の大切さ、が挙げられた。

そして、現代：(政教分離が成り、下からの目線で、政府の所業への批判も大切な要素となる。)ヨハネ23世の「地上の平和」が発行される。

以降、**戦争回避の方策の歴史**について語られた。ナポレオン戦争以降、平和は、「敵対する勢力の均衡」でもたらされると考えられた。それは、軍拡をも容認した。そこで第1次世界大戦が勃発する。その反省として、歴史家は次に、「融和政策」を良しとして、その上での軍事力均衡論。ところが、その隙をついたのがヒトラー。「今、攻めれば勝てる。年数が経てば、勝てない」という状況判断を生んだ。こうして第2次大戦が起きた。歴史家はそこで、やっと「抑止」を「軍縮」に求める理念に辿り付いた。冷戦下で、これが使われた。

今日、安部首相はこの歴史の教訓にも係わらず、軍事均衡を目指しているようだ。戦争の原因は、資源不足と、民族移動、とされているが、現在、世界に戦争の原因が存在することになる。その地に住む住民の生活・生命が大切にされることが大切である。

マイケル・シーゲル神父様のミサ説教

正義と平和全国集会在福岡で行われたので、初めて9月14、15日の2日間参加しました。主日ミサは、大阪教区の松浦悟郎補佐司教様が司式され、ミサ説教をマイケル・シーゲル神父様(真言修道会)がされました。シーゲル神父様は、「憲法9条を持っている日本国民をノーベル平和賞に推薦する」と言われたことがカトリック新聞に載っていました。どんなお話をされるのか、期待していました。

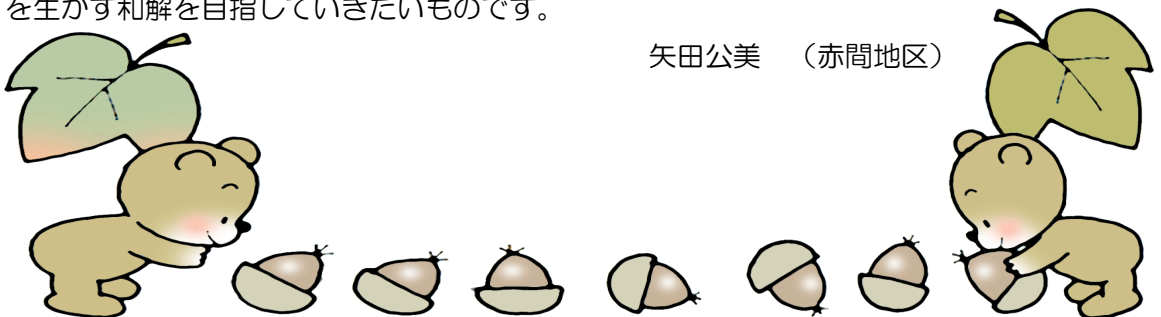
十字架称讃主日のヨハネによる福音は、「神はその独り子をお与えになったほど『世』を愛された。…神が御子を『世』に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって『世』を救われるためである」とあります。『世』は、人間のつながり(集うもの)が含まれる、といわれました。よく、神の国は、すでに始まっている、といいます。それはこの世で人と人がよい関係を築く、つながり、絆を大切にします。へだたりを乗り越え、常にすべての人との和解を目指すことによって、救いが完成する。

「正義と平和」は、英語でJustice and Peaceですが、日本語の「正義」はあまりふさわしい訳語ではない、といわれました。「正」は、「止」の上に「一」を書きます。社会の規範に従わせる、価値観を押し付けるようです。英語のJusticeには、着るものや履くものがピッタリ合う時just fitと使われるように、違いを認めて和解を目指すニュアンスがあります。

神父様はオーストラリア人で、戦争直後のエピソードを話されました。戦後カウラ収容所に400人くらいの日本兵捕虜がいました。虜囚の恥ずかしめを受けず、と脱走を試み、140人くらいは失敗して死亡、残りの260人くらいは周辺に逃げ込んだそうです。そのころ神父様の曾祖父?が娘を連れ、お弁当を持って猟に出かけました。もし日本兵が出たら撃ち殺すつもりだったそうです。ところが日本兵が現れてI'm hungry(おなかですいている)といったそうです。そこでそれは気の毒だとお弁当をあげて、もちろん後で捕虜は収容所に戻されましたが、その後友好的交流が続くようになったそうです。敵同士が和解する話はヨーロッパ戦線でも数多くあったようです。

イエス様も十字架につけられた時に『父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです』といわれました。相手に自分の価値観をあてはめるのではなく、相手を生かす和解を目指していきたいものです。

矢田公美 (赤間地区)



委員会等報告

2014年10月分

10月度小教区委員会

10月5日

1. 前委員会の議事録確認

特になし

2. 先月の行事報告

- ・ 敬者のお祝い会。75歳以上の方々、36名が参加。当日は信徒会館で昼食をした。
- ・ 正義と平和全国集会
9月13日～15日 7名が参加。

3. これからの活動予定

- ①信徒協主催親睦レクリエーション大会
10月13日(月)
- ②聖堂ワックスかけ 10月19日(日)
- ③大人の日曜学校 10月26日(日)
3名10分程度、信仰について
今までと同じような形で行う予定
- ④11月1日(土)
諸聖人 午前9時30分
死者の日(夜のミサ) 午後7時00分
- ⑤死者の日 11月2日(日)
追悼ミサ ミサ後追悼の祈り
納骨堂で自由にお祈りください
- ⑥七五三お祝い 11月9日(日)
- ⑦小教区委員会 11月9日(日)ミサ後
- ⑧信徒協聖書週間特別講演会
場所：小倉教会 講師：ベリオン神父
日時：11月16日(日) 14時～
- ⑨堅信式と祝賀会 親睦会
11月30日(日)ミサ後
堅信受けた方と司教様との茶話会
堅信式の後で昼食会のような感じでお祝

いしてきたけれど、皆でお祝いするのであれば親睦会と堅信式のお祝いを一緒にした方がいいのでは、という意見が出た。ということで堅信式のお祝いと親睦会を一緒にすることとなった。

11月9日(日)に小教区委員会で再度地区から提案された内容を検討して具体的に決める。

※吉田地区と折尾地区で食事関係を担当してもらおう。今までの経験者に協力を仰いで進めていく。

- ⑩聖堂外の電飾飾りつけ、大掃除
12月7日(日)

4. 各委員会・地区から

地区からの意見として完成報告書が出ているが同意書に対する回答に不満が出ている。申し入れに対してきちんと対応してほしい

5. その他

- ①聖堂補修工事説明会
11月2日(日) 予定
聖堂補修工事についての主な意見
*水巻信徒の同意は得られたのか



*資金はどのような費目から出されるのか説明してほしい

*最初の説明と違うところがある

*同意書に対して完成報告書が出されたが不満がある

*納骨堂管理費から今回の工事費が出されることになっている。管理費の一部が使われると理解しているが、信徒全員からお金を集めないで納骨堂資金から全額払うのは違うのではないか。20数年前に教会建設に関わって資金を出した人は自分たちが出したお金と思っている。それ以外のお金を出していない人たちの意見を伺いたい。

*今回の工事は大きな資金が必要と分っていたのだから資金別に集める必要があった。

*10年後の工事の為に資金を集める必要がある。そのための方法を話し合っしてほしい。

*納骨堂の資金集めは教会建設に関して費用が不足したことから始まったこと。それと納骨堂を買ったのではなく、その権利を買ったということではないか

*地区集会の時にどこからお金を出すか皆さんにはお話しした。総会でも承認をいただいた。

*からしだねに営繕積立の話がきちんと記述されていないから皆知らない。

*委員会での話し合いの内容がよくわからないという意見が出た 臨時の信徒総会を開く必要がある。

*今まで委員会での話し合いで色んな事を決めた。その場に今反対している人たちも居たはず。総会でも皆に話して承認をもら

った。納骨堂献金は教会の為に使うことも前に決められたこと。今それらを認めないのはおかしい。

*教会建設時に皆さんのおかげで教会ができたこと。そして資金があったことで工事ができたことに感謝している。これから先の営繕費用積立のために大切な教会だから出来る限りのことは協力したい。

*子供たちも今の教会の中で争いが起きていることを見ている。その様な会議を教会の中でするべきではないと思う。

②からしだね(10月号)について

*10月号のからしだねを、記事の内容が偏っているという理由で止めてもらった。

*今年の総会の議事録の内容が間違っているとたくさんの人から指摘がありその問題点を知ってもらうために中立の立場として記事を掲載した(広報委員)。

*役員と広報のメンバーで話し合っはどうか。

工事関係については 11月2日(日)に詳細について発表する

からしだねについては、修正して発行し他の教会には配布しない

③次回の小教区委員会 11月9日(日)

堅信式、クリスマスの準備について



パウロの歩いた道 No.7

毎年5月の連休に瀬戸内海の港町である、廿日市から津和野まで90kmを歩く巡礼に参加を始めて20年以上過ぎました。長い距離をただ黙々と歩くことの退屈さと足の痛さは、体験しないと理解できないものです。この巡礼が始まってから30年近くなります。この巡礼に毎年参加しているのは、この道を(浦上の信者が廿日市の津和野藩番所から津和野へ歩かされた)見つけて最初に歩き出した広島教区の肥塚神父と、岩本が最古参になりました。

前月号に書いたように和田幹雄神父様は、「歩くこと、・・その旅の苦しみによって・・・これこそ自分に対する福音宣教以外のなにものでもない。福音宣教しながら自分自身を福音化する。これは、その後教会が体験してきたことでもある」と著書に書かれています。

この巡礼は、車が通る道の横を暑さや寒さに苦しみながら歩きます。それでも最後に津和野の千人塚に着き、終着点でのミサに預かると、日ごろ惰性で教会に行っている自分の信仰を、新たにさせてくれます。パウロの歩いた道の長いことは誰でも知っていますが、少しでも歩くことでパウロの信仰を深く感じるができると思います。

長崎へ流された26聖人の殉教の道の途中に水巻教会はあります。毎年たくさんの巡礼者が京都から長崎まで26聖人の足跡を歩いています。その人たちは必ず水巻教会に寄ってお祈りをしていることをご存知でしょうか。

さて、第1回の旅が終わってから数年後パウロたちはもう一度福音宣教の旅に出ることにしました。ところが第1回の旅の途中で帰ったヨハネ・マルコのことでバルバロとパウロは仲たがいしてしまいました。そのためパウロはシラスという弟子を連れていくことになり、バルバロはヨハネ・マルコとキプロス島に渡って行きました。

バルバロと別れたパウロたちは、キリキア州を目指して出発します。アンティオキアを出ると長い峠道を越えることになります。その峠を越えた海沿いの道の横には小高い丘の上に転々と遺跡が見えます。これは十字軍が設置した狼煙台のろしだいでした。

その先の平原の中に、少しだけローマ式の水道橋の跡が残っている遺跡があります。今は何も無い田舎ですが、その場所こそBC333年にマケドニアのアレキサンダー大王がペルシャの王ダイオレス三世を破ったことで、ペルシャ帝国が崩壊したイッソスの戦いの古戦場跡です。そこを通り過ぎるとキリキア州に入ります。パウロの故郷であるタルソスはここにあり。アンティオキアからタルソスまで3日くらい歩いたでしょうね。以前にバルナバがパウロを捜しに行ったのと同じ道です。

私たちのガイドは、聖書学のためにエルサレムに11年いた人で、聖書を隅々まで知っている人でしたが、彼の言うには、「パウロは金持ちの息子だったので、福音宣教のために旅に出るときは必ず故郷に寄ってお金を貰ってから出発したはずだ」と言います。だから、使徒言行録に故郷に寄ったことを書いてなくても実家にお金を貰いに行ったというのです。私もそう思うのですが、みなさんどう思いますか。実家は金持ちでした。

社会問題に向き合うカトリック教会の基本姿勢

Q17：司教団は憲法九条の大切さを訴えています。それは政治的な立場の表明ではないのですか。異なる立場の信徒はどう考えればいいのでしょうか？

A：憲法改正が取り沙汰されるようになってから、賛否両論、いろいろな立場の人が意見をたたかわせています。社会で起こることに対して、司教団としてあるいは司教として発言するとき、それは、ある特定の政治的立場をとるものではありません。福音の立場から判断して教会は語るのです。憲法九条について、どの政党がどのような発言しているか、どういったスタンスであるかといったこととは無関係なのです。

日本国憲法は、その前文と九条によって、世界にあっても類まれなほど明確に、個人の尊厳（人権）と非暴力によって建設される平和の大切さを訴えています。この思想は、まさに福音そのものといえます。もちろん、困難な世界情勢の中にあって、その内容を完全に遵守するのは難しいことです。しかし戦後、まさに一触即発の冷戦時代にさえ九条が変えられなかったことの意義は、平和を目指す国際社会の中で大きな希望となっています。九条について日本の司教団は、「戦後60年平和メッセージ」の中で次のように述べています。

「教皇ヨハネ・パウロ二世は、聖パウロの教えに従って、平和は悪が善によって打ち負かされる時にのみもたらされる辛抱強い闘いの成果であることを明らかにしています。軍備と武力行使によってではなく、非暴力を貫き対話によって平和を築く歩みだけが、『悪に対して悪をもって報いるという悪循環から抜け出す唯一の道』なのです。これはガンディーの非暴力による抵抗運動などが示しているように、多くの人々の共感をよぶものです。この非暴力の精神は憲法第九条の中で、国際紛争を解決する手段としての戦争の放棄、および戦力の不保持という形で掲げられています」。

このように、司教団は憲法九条の福音的価値を、平和の実現にとって重要なものとして位置づけているのです。

信徒が個人として、現在の国際情勢に鑑み、九条を変えるべきか否かについてさまざまに考えることは自由です。しかし、わたしたちが最終的に求めるのは、イエスの非暴力による平和の実現であるということ、それは共通理解であるよう求められます。





★諸聖人の日★

日時:11月1日(土) 午前9時30分～

★七五三のお祝いミサ★

11月9日(日)ミサ中に行います。

★11月は死者の月です★

11月2日のミサの後で、死者の追悼の祈りを行います。色紙や用意してある紙に亡くなられた祈願者の名前を書いて、箱の中に入れてください。

★堅信式・親睦会★

日時:11月30日(日)

堅信式:ミサ中

親睦会:ミサ後、堅信式の祝賀会も兼ねて、水巻教会の親睦会をします。

※親睦会…フリーマーケットや食事を行う予定です。



教会学校のページ



9月28日

- ☆この日の神父様のお説教の意見をみんなで考えました。
- ☆旧約聖書物語のビデオ「ヨセフ物語」を見ました。

10月12日

- ☆旧約聖書物語のビデオ「モーセ物語」を見ました。